

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|------------------|
| 事業所名 | グループホームケアクオリティ大空 |
| (ユニット名) | 2Fユニット |
| 所在地 (県・市町村名) | 静岡県静岡市葵区 |
| 記入者名 (管理者) | 五條 義直 |
| 記入日 | 平成 21年 8月 1日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票(ケクオリティ大空2Fユニット)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|--|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>「地域に根差し共にふれあう関係をつくります」を独自の理念としている</p> | | |
| 2 | <p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>地域の催しなど積極的な参加をして取り組んでいる</p> | ○ | 参加するばかりでなく何かを提供し、ホームへ来て頂くような企画をしたい |
| 3 | <p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>ホーム内には訪問した際に目に付く場所に提示してある</p> | ○ | ホーム便りや運営推進会議などを利用してもっと理解していただけるよう取り組んでいきたい |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>家庭菜園を行っているため、作物の指導や種や苗を頂き気軽に立ち寄れるよう努めている</p> | ○ | ゴミ袋を持って散歩に出かけ町内のゴミを拾いながら知らない人にも挨拶をしている |
| 5 | <p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>町内の掃除や自治防災訓練など出席して交流に努めている</p> | ○ | 今後は敬老会の皆様と交流できる機会を作りたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|------|--|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | ホームの催しをきっかけに取り組めるように検討している | ○ | 催しや介護相談や車イスの体験などを計画している |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | ユニット会議で評価の改善点を発表し検討している | ○ | 評価の意義をもう少し理解できるよう指導していきたい |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 各メンバーの思い思いの意見が聞けるよう配慮し、反映している | ○ | 地域に関わる人達からの違った目線で意見が聞ける様に参加メンバーを増やしていきたい |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 提出書類など郵送せずに、直接足を運び担当者と会話するようにしている | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 利用させたい入居者には話をして権利擁護などの担当者に直接お話しできる機会をもって対応している。 | | |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 学ぶ機会をもっていない | ○ | 勉強会の項目に入れたい |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|-------------------------------|----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に説明している | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 管理者が窓口となり何かあれば家族と相談している | ○ 苦情相談窓口を掲示 |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月ホーム便りと月次報告書を通して家族へ報告している | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | サービス担当者会議で意見を聞いている。運営推進会議でも同じ | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 福利厚生の中で意見をきいて、管理者会議で議題を出している | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 夜間の救急時には緊急要請員を決めて出勤してもらっている。 | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 個人面談やその都度仕事の悩みを聞くようにしている | ○ 自己評価表を基に面談している |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|---|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者会議、ホームでのユニット会議などで情報提供、勉強会をしている | |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 系列の他ホームとは連絡をとりあっているが、同業他社ホームとは交流する機会をもっていない | ○ 包括支援センターが主催している圏域ケア会議に参加して交流する機会をもっている |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 管理者会議で話し合っている。ホームでは休憩時間や場所の確保、喫煙を保証をしている | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 勤務表は本社にFAXし研修や勉強会を行っている | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 利用者の不安な表情や相談、訴えに対し職員が対応、解決に努力している | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | ホームの見学を含め、家族、本人と面談しゆっくり話せる場をつくっている | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|---|--|------|--------------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居者に今必要としている支援を最優先に取り入れている | ○ | 取り入れてもうまくいかないことの見極めと次の支援導入へのスピードアップ |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居者に合わせたレベル、スピードでの導入を行っている | ○ | 量の加減等の見極め、スピードと継続性のレベルアップ |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | いろいろなお手伝いを通じて支えあう関係を築いている | ○ | すべての利用者にとってこの関係をもってもらえる様努力している |
| 28 | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 行事への参加を募って利用者との関係が希薄にならぬ様にしていく | ○ | 参加者をより増やしていきたい |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 行事を通じて入居者とご家族との関係を密にしている | ○ | 参加家族が決まっているので裾を広げていきたい |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ホーム内の生活に留まっている、来客はあるがこちらからのアプローチはしていない | ○ | 高齢化と体調不良が重なり外部との付き合いが希薄であるが努力 していきたい |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | リビングでの共同作業や食事レクリエーションを通してうまく築いている | ○ | 共同生活が苦手入居者へのアプローチの向上 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|---|------|------------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 他のホームへ転居された入居者にも面会に行っている | ○ | 面会に行けなくても季節ごとに葉書をお出しするなどの対応をしていきたい |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 月一回のサービス担当者会議で、モニタリングを基に立場に立った思いや暮らしぶりについて話し合っている | ○ | より深く入居者の希望に近付いたサービスの提供 |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居者の自由を最優先にサービスを提供している | ○ | 従来以上に入居者の希望に近付けるサービスを提供していきたい |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 入居者の自由度を最優先にサービスの提供をしている。生活パターンの把握にも努めている | ○ | プライベートにより気を遣ったサービスを心掛けたい |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 各入居者担当の職員がモニタリングを月一回行い、ユニット会議で意見を出し合いサービス計画に反映させている。家族にもサービス担当者会議に出席して頂き意見、要望を反映し計画を立てている | ○ | 課題への取り組みのスピードを上げていく |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 各居室担当職員が中心となり、問題点を出し、概ね3か月に一回は見直している。ユニット会議で問題が提起された場合はその都度見直している。月一回のモニタリングも実施している。 | ○ | 質、スピードの向上 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|--|------|--|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や実践については個別記録に記入し情報を共有しながら活用している | ○ | 共有した情報をデータ化し細かいケアに役立てたい |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居者や家族の要望については状況に応じて対応するよう心がけている | ○ | 入居者のニーズに対応するため柔軟な発想と姿勢で取り組みたい |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 消防訓練の実施やボランティアによる公演を通じて地域資源との協働を図っている | ○ | 今まで接点のなかった地域資源とも協働を図っていきたい |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 必要性に応じて他のサービス事業者との連動した支援を行っている | ○ | ケアマネジャー以外の介護職員であっても他のサービス事業者についての理解を深めたい |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 地域包括センターとの連携はあまりとれていない | ○ | 圏域会議を開催し協働していける体制を作っている |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人の状態に応じてかかりつけ医の指示を受けながら適切な受診や服薬が行えるよう支援している | ○ | 医師との連携は今まで以上に強めていきたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|---|------|-----------------------------------|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 医師(ホームドクター、各入居者の主治医)に相談するよう心がけている | ○ | 今後も医師との連携を取りながら支援をしていく |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 週一回訪問看護ステーションと契約し、24時間体制で支援できる環境を作っている | ○ | 予防の観点から看護職と協働しながら異常の早期発見に努めたい |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 利用者が入院した場合、病院および担当医との連絡を取るよう心がけている | ○ | 入院が予測されるケースについて職員間でシュミレーションしたい |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期に関しては対象者がいないため具体的なプランはない | ○ | 重度化や終末期に関する認識を高め具体的な方針を共有したい |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 重度化や終末期に向けた支援では現状「できること・できないこと」について職員間で話し合いの場をもっている | ○ | 今後の変化については予測される範囲の対策や準備をしていきたい |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 新しく入居する利用者に対しては本人が不安なく快適に過ごせるよう本人に係わる情報を活用している | ○ | 形に現れない入居者のメンタルな部分のケアに対しても留意していきたい |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|---|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | プライバシーを守り記録等を取るよう心がけ、居室に入る際は声掛けをするよう心がけている。 | ○ これまでの入居者の生活の中での誇りを尊重しプライバシーを確保していきたい |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 利用者と会話を良くします | ○ 本人らしいお仕着せではない生き方ができる様心がけている |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の意思で行動できないこともあり不穏になることがある | ○ 入居者の今までの生活してきたペースを尊重し職員の都合ではなく、入居者の自由な意思を尊重した支援を心掛けたい |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 入居者本人が気に入った物を着衣している。 | ○ 衣類の数が少なくバリエーションにかけることがある 必要に応じてメイクケア等を取り入れていきたい。 |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一緒に食事を摂り片付けなどの手伝いをしている | ○ 職員が一方向的に決めるのではなく何が食べたいか関わっていきたい |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 飲み物などいつも同じものでなく、温かい物や冷たい物も選んでいる 煙草を吸う方がおり自分が好きな時に吸われています | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|-------------------------------------|------|----------------------------------|
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | パターンや習慣を見極め支援している | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 希望やタイミングに合わせた入浴ができていない | ○ | 入居者がしたい時に入浴させるよう心掛けたい |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 生活習慣に応じた休息をとっている | ○ | 居室で休む時間を取り入れている |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 生活歴を活かした支援をしている | ○ | 畑を利用して園芸などの通した支援を考えていきたい |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金はほとんどがホームで管理し、欲しいものに関しては職員が対応している | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩やドライブで外に出かけ気分転換をしている | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 入居者の個々によって行けていない | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|---|--|------|---|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話に関してはキーパーソン各々の事情を考慮したうえで対応している。手紙が来たときは返事を書いて頂いている | ○ | 取り次ぎだけでなくプライバシーに配慮しながら電話を使用することを個別に支援していく |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | ご家族や知人の方がいつでも訪問できるよう日時の制限は行っていない | ○ | ご家族の方がより多く訪問して頂けるようアプローチを心掛けている |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束はしていない | ○ | 利用者の人権を守るため抑圧感のない暮らしを支援していきたい |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関や居室の施錠はしていない | ○ | 安全を確保しつつ自由な暮らしができる様支援していきたい |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 入居者の所在や行動には常に配慮している | ○ | 入居者を総合的に見つめる目を養いながら日々の中で把握に努めたい |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 危険な物や貴重品以外は居室に置いている | ○ | 自宅との環境のギャップを感じさせないよう工夫し本人が落ち着いて過ごせるようにしたい |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 利用者の行動で危険と判断した時には直ちに横に着くようにしている | ○ | 事故防止委員会を設置 身体機能の状態に合わせた危険防止や自分の力を活かして動けうことを支えるための個別の設備道具を工夫していきたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|--|------|---|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | フローチャートがありそれに沿って急変にはいち早く対応できるよう観察し適切な処置をしている | ○ | 応急手当に関して定期的に訓練を行い実際の場面で活かせる技術を習得していきたい |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災訓練等入居者も一緒に参加している | ○ | 運営推進会議で地域に協力を呼びかけている |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | リスクについてはご家族と十分話し合い理解いただいている | ○ | 入居者の状況や実情は定期的にご家族に報告している |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 体調変化や異常があった場合にはすぐに上司に報告し適切な対応ができています | ○ | 体調変化にいち早く気づけるよう入居者の観察をしていく |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 飲み忘れや誤飲防止のため 薬をセットする者服薬させる者の二人が確認するようにしている | ○ | 服薬する薬の目的や副作用等を理解し利用者の変化等に関する日常の記録を関係者に情報提供し服薬調整して活かしていく |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 飲食物の工夫や運動への働き掛けをして自然排便を促す工夫をしている | ○ | 下剤等を習慣化させないよう個々の便秘の原因を探り日常生活の中で予防していく |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後入れ歯洗浄、舌ブラシ、うがい等各々に合った口腔ケアをしている | ○ | 口腔ケアの重要性を理解し利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔保持に努めたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---|------|------------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | こまめな水分摂取をしてもらっている、1か月の献立表を栄養バランスを考え作成し実施している | ○ | 特に脱水が心配な時期には水分補給の声掛け工夫をしている |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 本社から感染症の資料が配布されたりユニット会議で取り決めをしている。予防のため消毒スプレーやジェルタイプの消毒薬を設置している | ○ | 感染症予防対策委員会を設置 |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | シンクやまな板の除菌、清掃を徹底して行い食材の賞費期限の確認をしている | ○ | 常にキッチンの清潔が保てるようハイターで除菌清掃を徹底していく |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 夜間以外は特に施錠せず外部からの訪問者にはインターホンで対応している | ○ | 外部からの訪問者を気持ちよく迎えらるよう玄関周りの清掃をしていきたい |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには入居者の作品を展示したり季節感も大切にしている。浴室・トイレも清潔を保つよう汚れたらすぐに清掃している | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自由に席を移動したり、畳の上で横になられたりしている | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|--|------|--|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者が使いなれた物を配置し工夫している 生活保護が多いので荷物が少なく閑散とした部屋もある | ○ | 地震時のタンス等の転倒防止の工夫をしていきたい |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 換気はこまめに行っているほか芳香剤などで対応している。居室内の温度はこまめにチェックし調節している | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 床は段差もなく廊下、トイレには手すりが施され歩行しやすい。安全に歩行できるよう障害物は置かないよう留意している | ○ | 歩行や車椅子での移動などご自身でできることは手すり、杖などを使用しながら見守っている |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | パズル、手芸など趣味を取り入れながらそれぞれの理解できる範囲でレクリエーションを行ったりしてわかる力を活かしています | ○ | 閉じこもりがちになるので声掛けをしレクリエーションへの参加を促す |
| 87 | ○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | ベランダに洗濯物を干したり運んだりのお手伝いを危険のないよう目の届く範囲で手伝いをして頂いている | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | |
|--|------------------------------------|
| 項 目 | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 |
| 88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの |
| | <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない |
| 89 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> ①毎日ある |
| | <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある |
| | <input type="radio"/> ③たまにある |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどない |
| 90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と |
| | <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと |
| | <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | ○ | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「地域に根差し共にふれあう関係を創ります」を理念に、私達から地域へ発信できる事を日々模索ししています。ふれ合いを通し、そこから生まれる関係を大切にしていける事で、安心して暮らせる環境になると考えております。